

事業報告

事業名	令和2年度夢トーク in やまぐちIV～環境学習講演会～		
日時	令和2年12月6日(日) 13:30～15:00		
場所	山口県セミナーパーク講堂	参加者数	105人

環境学習講演会を開催しましたので、概要を報告します。

1 演題等

演題：持続可能な循環型社会をめざして～プラスチックごみの行方～

講師：山口大学名誉教授 浮田 正夫 氏

2 講演の概要

プラスチック廃棄物の処理処分の現状や環境汚染の問題等について、講師の長年の実践に基づく講演内容で、「環境」やプラスチックごみに対する意識を醸成する有意義な講演会であった。

○持続可能な循環型社会の原則

- ・循環型社会の原則として、「分けたら資源、混ぜたらごみ」と言われるように、生ごみとプラスチックごみは混ぜずに処理することが大切

○プラスチック廃棄物の排出量と処理状況

- ・日本は焼却処理が普及、汚れたプラスチックごみを燃やすことができる。県内3市の可燃ごみの内訳は約17%がプラスチックごみで、1人1日あたり170gを排出
- ・様々な種類のプラスチックが様々な用途で使用され、容器包装のプラスチックは一人あたり年間35kgを排出しており、米国に次いで世界2位である
- ・プラスチック容器包装の材質表示を見てみると、ポリエチレンやポリプロピレンなどを複合して作られており、複合材質、複合素材であることが多いプラスチック製包装容器は、高品質な材料リサイクルが難しい
- ・2018年の日本のプラスチック廃棄物の総排出量は891万tで、処理処分の内訳はマテリアルリサイクルが23%、ケミカルリサイクルが4%、サーマルリサイクルが56%、未利用(埋め立て)が16%となっている
- ・不燃ごみや粗大ごみの中にもプラスチックごみが多く含まれており、宇部市では5区分に分けられたのち、プラスチック区分と可燃区分は焼却炉、不燃区分は埋め立て地へ送られているが、最終処分場へ行くとプラスチック片が多く見られる

○ポイ捨てごみの行方

- ・プラスチックごみによる環境汚染は、海や川への大量流出や生態系への悪影響、有害物質(PCB)を含むごみの流出など、世界中で問題となっている
- ・マイクロプラスチック(5mm以下のプラスチック)による影響も深刻化しており、北極圏の雪にプラスチック片が交じっていたり、イワシからプラスチック片やマイクロビーズ、化学繊維等が検出されたという研究結果が出ている

- ・ 関東のNPO法人によると、多摩川河口のヨシ原には大量のプラスチックごみが堆積しており、その中からは30～40年前に人気だった人形が見つかる
- ・ 宇部市の中川河口ヒヌマイトトンボの生息代替地は、地盤が低くごみが堆積しやすいため、10年以上のごみが堆積していると考えられる。清掃活動では発泡スチロールが圧倒的に多く回収され、事業所等からの不法投棄と考えられる。泥やヨシ原の中に堆積したごみが大量にあり完全に回収することは不可能
- ・ 床波黒崎海岸の清掃では、ペットボトルやカキ養殖用のスパーサーが大量に回収された。回収しきれない発泡スチロールはだんだん細かくなり、5mm以下になると素手で時間をかけても回収困難になる
- ・ 2020年9月、台風9号の影響で黒崎海岸のゴミが移動し、海へ再流出したり、護岸を超えて道路側に飛ばされていることが推測される

○どうすればいい？

- ・ 清掃活動には限界があり、流出したプラスチックはマイクロ化すると回収不可能、元を絶たなければならない。制御できないプラスチックは使うべきではない
- ・ シンガポールではポイ捨てに厳罰を科している。日本でもポイ捨ての厳罰化やレジ袋、ごみ処理の有料化など、間接的な抑制を厳しくしていくべきではないか
- ・ 事業者は拡大生産者責任を自覚し、ごみの減量化や開発、LCA (Life Cycle Anlysis : 製品等に対する環境影響評価の手法) による説明に取り組む必要がある
- ・ 植物プラスチック 25%を含む袋はボロボロになりやすくマイクロ化の懸念があることや、マイバッグについてのLCAによる説明では前提条件が妥当といえないなど、事業者に都合のいい情報発信ではないか注意する
- ・ 持続可能な社会づくり、SDGsの達成は皆が大切だと思っているが、実現は困難。経済社会の仕組みから考えていかなければならない。そのためには市民の価値観を変えていくことが大切で、特に若者の意識が低いのではないかと思う

○まとめ

- ・ ゴミを生産する経済の仕組みを見直す必要がある。作ったもの、捨てたものが自分に返ってくると考えると作り方が変わる
- ・ 「もったいない」精神の再生。消費者として傲慢になっていないか
- ・ ESD 環境教育の必要性。子どもの頃に大切なことを教える。子どもは面白い話でないと聞かないと言われるが、大事なことを真剣に教える必要がある

